鳥　獣　害　防　止　指　針

目　　次

駆除、防止方法
野ソ …… 2
野ウサギ …… 4
鳥類 …… 4

1.駆除、防止方法

害鳥獣名	適用場所又は作物名	防除時期	防除方法	参考及び注意事項
野ソ	農地 田畑	晩秋～初冬 (11月中旬 ～12月上旬) 早春 (４月中旬 ～５月上旬)	1. 殺そ剤による駆除 現在市販されている殺そ剤の種類はいろいろあり、それぞれの特性をもっている。どの殺そ剤も、ネズミの体内に入った場合にのみ効果をあらわすので、ネズミがよく食べるような方法をとらなければならない。 ○ 殺そ剤の使用方法 (1) そ穴投入法 野ソの穴や通路穴に殺そ剤を投入して駆除する。 土堤や果樹園など雑草が茂っている所に多いので重点的に行う。 (2) 点状配置法 水田や畑地では一定間隔、果樹園では樹の根元や樹列間に一定間隔で所定量の殺そ剤を適宜配置する。 (3) ベイトボックス法 野ソが通る小さな出入り口のある餌箱(ベイトボックス)に殺そ剤や毒餌(殺そ剤を含んだ餌)を収納し、ベイトボックスを等間隔に配置する。	○ 使用方法については剤や適用場所によって異なるので、使用する薬剤の使用基準を遵守すること。 ○ 毒餌の食いつきが悪い場合は、殺そ剤を含まない餌を与え、２～３日喫食させた後に毒餌を置く。 ○ 殺そ剤の特徴 〔リン化亜鉛粒剤〕 胃液と反応してリン化水素ガスが発生し、呼吸困難により死亡する。摂食後、通常３～５時間で死亡する。二次危害はほとんどなく、その他の動物には比較的安全である。 〔ダイファシン系粒剤〕 累積毒、抗血液凝固作用を有し、連続摂食により内臓器官の出血を起こして３～５日後に死亡する。その他の動物には比較的安全である。 〔クマリン系粉末〕 手足をなめる習性を利用して、摂取させる。累積毒で、抗血液凝固作用を有し、内臓器官の出血を起こして５～７日後に死亡する。１週間以上保持するために再散布が必要。その他の動物には比較的安全である。
	倉庫		1. 殺そ剤による駆除 現在市販されている殺そ剤の種類はいろいろあり、それぞれの特性をもっている。どの殺そ剤もネズミの体内に入った場合にのみ効果をあらわすので、ネズミがよく食べるような方法をとらなければならない。	○ 適用場所については、使用する薬剤の使用基準を遵守すること。 ○ ３日以上連続摂取させることが必要である。
	果樹園	秋 (９月下旬 ～10月上旬) 晩秋～初冬 (11月中旬 ～12月上旬) 早春 (４月中旬 ～５月上旬)	1. 殺そ剤による駆除 現在市販されている殺そ剤の種類はいろいろあり、それぞれの特性をもっている。どの殺そ剤もネズミの体内に入った場合にのみ効果をあらわすので、ネズミがよく食べるような方法をとらなければならない。農地、田畑の項参照。 2. 忌避剤による防止 (1) 樹幹への処理 所定濃度で樹幹や主枝などに散布又は塗布する。 (2) 樹冠（幹）下への処理 根雪前、樹冠下半径50cmの範囲の落葉、雑草等をあらかじめ取り除いた後、所定量を均一に散布し、表土とよく混和する。	○ 適用場所については、使用する薬剤の使用基準を遵守すること。 ○ 毒餌の食いつきが悪い場合は、殺そ剤を含まない餌を与えて２～３日喫食させた後に毒餌を置く。

害鳥獣名	適用場所又は作物名	防除時期	防除方法	参考及び注意事項
野ソ			3. 殺そ剤以外による駆除 (1)　ネズミ取り器(ワナ)による捕殺 ネズミ取り器には金網やダンボール紙でできた生けどりワナ、バネの力でネズミを捕らえる弾きワナ、粘着シートを利用したワナ等がある。 (2)　上面に直径10cm程度の穴をあけた石油缶を地上５cmくらい出るようにして土の中に埋め、缶の中には餌を入れ、缶の上にワラを敷き、その上に缶の穴が積雪でふさがれるのと缶に雨水が入るのを防ぐため、屋根をかけておく。 なお、缶の中に水を入れて落ちた野ソを溺死させる方法もあるが、野ソが腐敗するため後始末がやっかいである。 以上の諸対策を併用すると効果が高いので総合的に実施する。 4. 被害の回避 (1)　園地が汚れていると、野ソの侵入が容易になり、被害を受けやすいので、園地をいつも清潔にすることが大切である。特に野菜などの畑作物を作付けしている所では、積雪前にそれらの残さをきれいに片付け、清耕しておく。 (2)　草生、敷草等を行っている場合は、野ソが巣を作りやすいので、積雪前に幹の周囲を清耕して野ソの巣をこわし、また、巣を作るのを防ぐ。 (3)　苗木及び若木の場合は、刈り取った草を敷草とすると夏でも被害を受けるので、７月中旬以降は敷草を除き根元を清耕する。 (4)　樹幹に対する野ソの害は成木よりも若木に多い。苗木及び若木に晩秋に地上１m位の高さまで(積雪の多いところでは更に上まで)樹幹に割竹、杉葉、金網、肥料等の空袋、合成樹脂のプロテクターなどの被覆材料を巻きつける。 (5)　２月以降、幹の回りの雪が早く溶けると特に加害されやすいのでこの時期には数回、幹の回りの雪を踏み固めておく。また、垂れ下がって雪に埋っている枝先は掘り出しておく。 5. 野ソ被害樹の処置方法 (1)　樹幹を食害された場合 ア. 地際付近の樹皮を、完全に一周して食害された場合は、盛土を行い、カルスの形成を促すと同時に、可能なものは寄接ぎを行う。回復の見込みのないものは植え替える。 イ. 地際部以外の場合は、食害程度に応じて、各種「切り口及び傷口のゆ合促進剤」の塗布もしくは植え替えを行う。 (2)　根部の食害が考えられる場合は、早めにその食害程度を確認し、甚だしいものは植え替えを行う。	○ 使用方法については、薬剤の使用基準を遵守すること。

害鳥獣名	適用場所又は作物名	防除時期	防除方法	参考及び注意事項
野ウサギ	果樹園	晩秋 ～２・３月	野ウサギは狩猟鳥獣であるが、捕獲するには鳥獣保護法に基づく手続きが必要であり、毒殺は本法で禁止されているので、防止対策としては忌避する方法のみである。このため、次の方法で被害を防ぐ。 (1)　積雪の少ない所では、地表40～50cmまで幹の周囲に金網などを巻く。 (2)　市販忌避剤を所定濃度で枝幹部に塗布又は散布する。 (3)　被害のひどい所では、費用はかかるが積雪の上に約70cm出るように、金網の垣を園地の外周に張り巡らして侵入を防ぐ。	○ 適用場所については、使用する薬剤の使用基準を遵守すること。
鳥類 （ウソ ムクドリ ヒヨドリ ツグミ カラス）	果樹	生育中	ムクドリ、カラスなどの被害防止には、現在、防鳥網を使用するのが、最も効果のある方法であり、被害の大きい所ではこの対策を講ずる。 これらの鳥に対しては、防鳥網の網目が、35㎜以下であればよい。被害の大きい品種が、集団で栽植されている場合は、その部分について全面を被覆するように網をかけ、外周は地表まで網を垂らして、害鳥の侵入を防ぐ。	
〔ハト〕	だいず	発芽時	1. 防鳥網 これらの鳥に対しては防鳥網の網目が、35㎜以下であればよい。被害の大きい品種が、集団で栽植されている場合は、その部分について全面を被覆するように網をかけ、外周は地表まで網を垂らして、害鳥の侵入を防ぐ。 2. 鳥追テープ 簡単な木を使用し、40～50cmの高さに縦横にテープを張る。慣れを防ぐために発芽２日前に張り、ハト害が無くなったら直ちに取り除く。 テープの長さは１a当たり20m程度。 3. 爆音機付鳥用発射体上下動装置(ラゾーミサイル)による忌避 (1)　だいずの発芽直前から１ha当たり１個の割合で設置し、被害を防止する。 (2)　本機の使用期間は、ハトの慣れを防ぐために短期間にする(10～15日位)。 (3)　強風時には、ドームキャップが空中に風力で滞留することがあるので５m/秒以上の風速のときは使用しない。 (4)　光電スイッチの使用によって日中のみ作動させる。	○ 鳥追テープは取り遅れると、風で切れ、だいずの葉に巻きついて傷めるので注意する。
		は種前	4. 忌避剤 種子に所定量を処理し、は種する。	○ 使用方法については、薬剤の使用基準を遵守すること。
（スズメ ハト キジバト カラス カワラヒワ）	稲	は種前	1. 忌避剤 種子に所定量を処理し、は種する。	○ 使用方法については、薬剤の使用基準を遵守すること。
（カラス ハト キジ）	飼料用とうもろこし、とうもろこし	は種前	1. 忌避剤 種子に所定量を処理し、は種する。	○ 使用方法については、薬剤の使用基準を遵守すること。